

2015年6月23日 掲載 輸送経済新聞

3社共同運行を拡大

トナミ運輸・第一貨物・久留米運送

土日、大阪―関東で

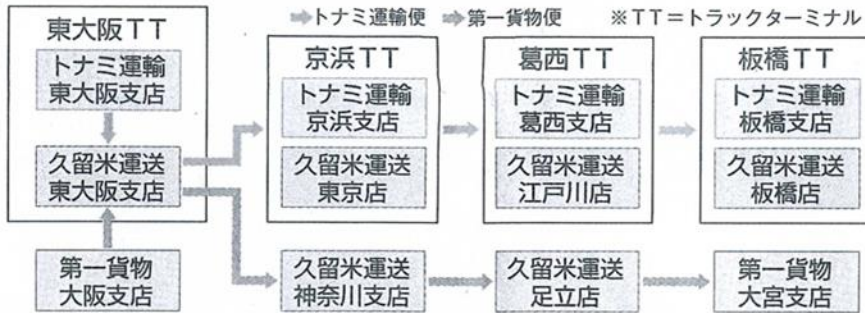
トナミ運輸（本社・富山県高岡市、綿貫勝介社長）、第一貨物（同・山形市、武藤幸規社長）、久留米運送（同・福岡県久留米市、二又茂明社長）の特積み三社は七日、大阪―関東間の週末運行で共同輸送を開始した。久

留米運送の大型トラック一台分の荷物を、トナミと第一貨物の運行便に振り分けることで二社の積載率向上や、久留米運送の外注費削減を図る。週末輸送について、トナミ運輸の東大阪支店発の自社便に久留米運送の関東向け荷物約六トを積み、第一貨物の大阪支店発の自社便に久留米運送の東京・神奈川向け荷物約六トを積んで輸送する。各社の運行スケジュールにに応じて、関東向け便は土曜か日曜のいずれかに運行。

備車を減らし
荷物分支払う

トナミと第一貨物は、平日に比べ荷物が極端に少ない週末便の積載率を高められる。久留米運送は備（よう）車一台分の

3社による週末共同運行のルート



費用が削減でき、二社に委託する荷物の分だけ料金を支払う。内製化で品質向上にもつながる。

運行ルートは、大阪支店→同神奈川支店→同足立店→第一貨物大宮支店着。途中、久留米運送の二店所に立ち寄る形を取る。

平成二十四年九月にトナミホールディングス（本社・富山県高岡市、綿貫勝介社長）、第一貨物、久留米運送で共同運行事業会社「ジャパン・トランス・ライン（JTL）」を設立して以降、各社は協力して運行効率化を推進。JTLによる関東・関西間の平日共同運行、第一貨物と久留米運送による東北―九州間の降ろし作業乗継ぎ運行、トナミ運輸と第一貨物による中京・東海―関東間の共同運行に結実している。

今後、実施の共用化や共同配達など、規模拡大や相乗効果創出を図る方針。（矢田 健一郎）

第一貨物の場合、第一貨物大阪支店発→久留米運送東大阪支店

針。